

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197600356		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホーム ハートの家六番館		
所在地	石狩市花川北6条3丁目16番地		
自己評価作成日	平成27年10月30日	評価結果市町村受理日	平成27年11月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0197600356-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 27年 11 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

石狩に開設して4年目のグループホームです。サービス付き高齢者住宅・小規模多機能型居宅介護サービスが併設しており、施設内でのイベントを通じてフロア外の入居者様との交流が図れる環境です。ユニット2(3Fフロア)では【明るく笑顔がたえないフロア】をスローガンとして、本人のペースで生活する中にも、ちょっとした話題からみんなで楽しくお話をする雰囲気になるよう職員は心がけており、車いすだったり認知症状が重い方についてもみんなの輪の中に入り、ともに暮らしている安心を感じていただけるような努めています。また、食器ふきやおやつ買い物外出など、一人ひとりが何かしらの手伝いを通じて、一緒に暮らしているという実感を感じていただけてるかと感じます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	● 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	● 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	● 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	● 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	● 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	● 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	● 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	● 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	● 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	● 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	● 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	● 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	● 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【地域に根ざし、共に生き、共に感じあい、共に喜びあえる暮らしを創りつづける】という理念に基づき、スタッフは入居者様一人一人の事案について悩み、スタッフだけでなく専門職の方やご家族様の支えも含め、どのように本人を支えていけるかを日々模索している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議では地域の方々が参加してくださり、施設の夏祭りでは多くの近隣住民の方々が催しを楽しんでくださいます。また、地域の花壇作業やイベントにも参加したり、一芸ボランティアさんやアートボランティアさんなどの訪問もあり、多様な関わりがあります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の専門職として、認知症サポーター養成講座での講師としてお話をさせていただく機会があったり、認知症について知っていただくラン伴イベントに参加したりなど、できる範囲で行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の頻度で運営推進会議を実施しているが、認知症についての学びや、ホームでの取り組みを伝えるだけでなく、ご家族様や地域の方々の率直な意見を伺うことで、よりよいケアとホームとの結びつきを築きあげています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の高齢者支援課担当者の方が、毎回運営推進会議への参加をしてくださっており、地域情報の連絡、ならびにホームの取り組みについて知っていただいていると感じます。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で【身体拘束抑制廃止虐待防止推進委員会】を定期的に開催しており、不適切な対応やケア行為について学ぶだけでなく、なぜそういう行為に至るかのストレスマネジメントについても詳しく学んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束抑制廃止虐待防止推進委員は、法人内研修および、道主催の外部研修で学んだ内容を、ミーティングを通じて職員に発信している。スタッフ1人1人に問いかけながらの勉強会を行うこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ、日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用するケースがないため、具体的にかかわるという機会はない。だが、石狩市内で外部研修があれば参加し研鑽に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書の読み合わせを通して、本人や家族からの率直な疑問についてお答えしています。また、計画作成者からはご本人のケアプラン等について、フロアリーダーからはホーム生活する上での備品などについて説明し、ご家族様が質問しやすい雰囲気づくりを心がけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各フロアに意見箱を設置しご意見をいただいたり、運営推進会議等の機会でもいただいたりしています。ご家族様や外部の方がいらっしゃった際は、スタッフからお声をかけ気軽にお話をしてくださるような雰囲気づくりに心がけています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催するミーティングで、管理者は情報発信だけでなく、スタッフの疑問や意見に対して聞いている。その場ですぐ返答できないものについては今一度確認したり法人会議で検討するなどし、後日しっかりと答えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員一人ひとりの経験・知識・成長度合などを把握し、本人が会社でやりがいをもって働けるよう、面談や日々の会話などで業務状況を評価(ほめる・認める)することに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修としては、各種委員会での学びのほか、新人研修や中堅職員研修を実施している。また、道社協主催の専門職研修や、役職者については認知症ケア実践者研修などの受講機会を積極的に設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	石狩市内においては、専門職研修会を定期的の実施しており、そこに管理者も職員も参加している。また、GH連絡協議会への参加や、いしまちひろば(石狩における高齢者福祉等について具体的な取り組みを行う有志の集まり)への参加などを行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に2度3度、ご本人に会いに行き関わりを持つことで、できるだけ安心して入居に移行できるよう努めている。また、入居後は認知症の症状による混乱やストレスも想定し、担当者が中心となって個別な関わりも含め、本人の話に傾聴できるよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時契約説明だけでなく、入居して1カ月くらいの間はご家族様としても本人が生活に馴染めているだろうかと心配する面もあります。来訪時あるいは電話での状況報告をするとともに、その中で素朴な質問にも丁寧に応じることに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人がいらっしゃるご自宅、あるいは入院先を訪問し、本人の状態を把握する中でホーム入居時の支援を具体的に検討している。できるだけ、本人が生活上危険のないよう、また安心して暮らせる方法をソフト面・ハード面両方から検討し、入居前準備をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各入居者様のできることを、スタッフ間で共有し、食事作りの手伝い・食器拭きなどを行って行っています。入居者様とスタッフがお互いにありがとうと伝え合える関係をイメージしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を細やかに家族様に伝え、時にはカンファレンスにご家族様も参加していただき、日々のケアに生かしていくなどの協力関係を築けていると思う。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各入居者様のADLIにもよるが、家族様協力のもと、なじみの場に出向いている方もいるが、ADL低下もあり出ていない事のほうが多い。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に食事やお茶の時間で、スタッフが間に入り共通の話題をみんなで楽しくお話できる雰囲気心がけている。また、入居者様皆様で外出したり、各々の役割をもってもらったりと関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の内容としては、療養型施設へ移られたり、入院先でお亡くなりになるケースなどがある。その場合でも、家族様からご本人状況をお電話くださったり、入院先にホーム職員が面会に行ったり、お亡くなりになった時も写真など思い出の品をお渡ししにいくなど自然に行っている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フロア生活に馴染むことも大切だが、本人が抱えている思いや悩み、本当は言いたいことなどは個別に居室にてお茶をしながらお話を聞くなどしている。また、ケアカンファレンスを通じ、ケアマネージャーだけでなくスタッフ全員が意見交換をし本人の意向について検討している。		
----	---	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様・ご家族様そして紹介先より、出来る限りの情報をいただき、把握に努めてます(入居前面談のほか、入院先や自宅に職員が面会に行ったりなど)。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一週間単位で記録する個別記録シートを活用し、本人のその日の様子を会話・行動について記している。また、日誌や引き継ぎなど、チームで周知していけるよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の状況に応じ、随時モニタリングを行い、ご家族様と共有しながら、チームで現状に即した介護計画を作成し、実施する努力を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録については、スタッフ間でとらえ方が違っているように思える。ある程度統一した見解をもって記載することや、読み手にとってわかりやすい記載の仕方など、今後の課題として学習していかなければいけないのではと感じている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のニーズの変化により、ご本人様・ご家族様と常に話し合い、方向性を確認しながら作っている努力をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりのニーズに合わせた地域資源の活用を十分に行っていくことは難しいが、出来る限り地元ならではの特色を生かした行事には参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様の希望に基づいたなか、医療との連携を密にし、納得できる体制づくりを行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師および訪問看護との契約がないため、それぞれのご入居者様の主治医に相談しながら、健康・医療支援につなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状況に合わせ、医療機関との連携を行い、随時入居者様の状況を把握していけるよう努めている。通常より関係作りは努力している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	家族または医療機関との話し合い、ホーム側での対応力のバランスが難しい。大切なこととしては、ホームが対応できる範囲を、ご家族様と医療機関とともに明確にしておくことであり、おだやかなホーム生活を本人が過ごせるための支援を行っていきたい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1、2度、赤十字さんによる救急時対応の訓練を全員が受講している。だが、いざ急変したり事故発生の際は、緊張や経験の差もあり対応能力にまだバラツキがあると感じている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2か月に1度の割合ではありませんが、夜間や日中帯想定での避難訓練を行っています。さらに、法人防火管理委員会では、法人内各ホームより委員が集まり、より実践的な訓練を行うための勉強会を行っており、最近では卓上シミュレーションを取り入れた訓練も実施しています。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	大変難しい課題である。誇りやプライバシー確保について、常に学び確認していく必要がある。スタッフは、入居者の一人ひとりを敬うとともに、仕事ではあれど入居者様とスタッフがともに過ごすことで、お互いが感謝しあえる関係であることがまず根本的に大切なのだと思う。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が言葉や表現でうまく訴えられないことが多く、埋もれていることが多いのが現状かと思う。介護者やご家族様はその経過を感じる過程でショックする場面もあるが、本人の代弁者であるために言動や表情なども含め、本人にとってよい方向性を模索していくことが大切と考える。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	出来る限り、ご本人様の希望に沿った支援を考えてはいるが、現実としては様々な条件が足りず出来ないことも中にはあるかと。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方その方にもよるが、ご本人の希望する身だしなみ、おしゃれについて極力支援している(化粧品を一緒に回に行く、一緒に選ぶことも。)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、利用者様が自らの力を発揮できる役割をもち、積極的に参加していただくよう努めている。また、季節に合った料理や食器を替えるなど、食事中も楽しんでいただく工夫をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーの過不足や栄養バランスの方より、水分不足などにならないよう職員全員がしっかりと知識を持ち、利用者様それぞれの好みや習慣に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し周知徹底し、本人の習慣や有する力を生かしながら、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	可能な限りトイレで用を足すことができる支援を心がけている。オムツを使用されている方には、オムツ内の環境・清潔保持を徹底している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すために、乳酸菌飲料や食物繊維の多い食べ物を多く取っていただいたり、継続的に対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	一人ひとりの生活習慣や、その時々希望に合わせて心地よい入浴ができるよう支援している。また、入浴する事によって生まれる羞恥心や恐怖心、負担感などを理解するように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要な休息や睡眠が取れるように環境や生活の過ごし方、活動状況、ストレスの状態などを職員で総合的に把握していけるよう検討し努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用途を理解し、服薬される方の状態の経過や変化などに関する記録をつけて主治医に情報提供して、治療や服薬調整に生かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしが楽しみや張り合いのあるものになるよう支援しています。食事のちょっとしたお手伝いや食器拭き、新聞たたみ・洗濯物たたみなどの定番のものから、臨時的にみんなで行う作業も楽しみの一つである。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様が日常的に外出できるような個別の支援を工夫しています。重度の利用者も「外出は困難」と決めつけはせず、本人が戸外で生き生きと過ごせるような工夫をしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の金銭を預かったり管理する際は、ここに合った金銭の額や使用に関する相談・報告などの預かり金に関する取り扱いについて、家族等と相談し合意を得ています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりを行っているケースは今のところほとんどない。遠方のご家族様からお電話をいただくことはある。耳が聞こえなかったり、字が書けないなどで本人がかえってがっかりしないよう職員は配慮しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は居心地よく過ごせるように、その人らしく過ごせる場となるよう工夫と配慮をしています。利用者様にとって居心地のよい場を整えていく努力をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	集団での生活で不安やストレスをなるべく感じさせないよう、1人になれる居室・少し離れた場所にソファなどを用意しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様一人ひとりの居室に、馴染みのものを生かしてその人らしく暮らせる用、プライバシーを大切にしながら、居心地よく安心して過ごせる環境づくりを心がけています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不安や混乱、失敗をまねくことをできるだけ減らすよう、環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする環境面での工夫をしています。		